

# 和良の郷だより

若鮎号  
5月1日号  
和良おこし  
協議会発行



見ると、足元には放たれたばかりの稚魚が元気に群れをつくり泳ぎ回っていました。

## 勢いよく和良川を遡上

和良川の稚鮎放流



いよいよ待ちにまつた和良鮎のシーズンが近づいてきました。

シーズンの始まりとなる稚魚の放流が4月13日（月曜日）から3日間行われるということで、初日と2日目に同行取材しました。

初日はあいにくの雨でしたが、滋賀県の株式会社鳥塚より運ばれてきた琵琶湖産の稚魚500kgが昼過ぎに和良に到着。待っていた和良川漁業協同組合の方達により早速放流が始まりました。到着したばかりの稚魚を運搬車で放流ポイントに移動し、事前に決めていた稚魚の量を放流。少量を放す場合はバケツリレーで川まで運び、放流。多い場合は太いホースを使い、運搬車から直接川に放します。放流された稚魚は水と共にホースから勢いよく飛び出ていきました。周りの

放流2日目は初日と違って変わって晴天。春のうらかな陽射しのなか、前日とは異なるポイントで手際よく次々と放流が進められました。

3日目は岐阜県産を500kg放流し、その後は6月28日（日曜日）に500kgの二次放流が行われ、二次放流までの合計で2,000kgと昨年と比べて大きく増量された放流を予定。加えて今年は三次放流（300kg）も実施されるということです。

今年から「初心者・レディースエリア」が設けられるため、これまで鮎釣りをやったことのない方にとっては鮎釣りを始める良い年になりそうです。

放流された元気な稚魚の姿を見て、毎年9月に高知県で開催される「清流めぐり利き鮎会」でのよい結果（V5!）が楽しみにになりました。

さらには10月25日開催予定の「和良鮎まつり」でも美味しく成長した鮎と今度はお皿の上で再会できることも楽しみです。今年もみなさまのお越しをお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

2020年和良鮎解禁情報は以下のとおりです。

特別解禁：5月23日（土曜日）、24日（日曜日）

一般解禁：6月6日（土曜日）より



少量を放つ場所ではバケツで放流



作業の合間にホッと一息

## 映画かば・和良町出身の教師と生徒の物語

和良町出身の教師（故・蒲益勇さん）の実話に基づく映画が公開予定です。映画製作の企画が立ち上がったから約5年という時間が経ちました。本編撮影は昨年中に終了して、編集も7〜8割が出来てきた様です。完成まで音楽制作、CG、色調整など仕上げの作業が残っているようです。これまでに多くの寄付や協賛をいただき、クラウドファンディングなどにも挑戦してきましたが、完成までの資金が1,300万円ほど足りません。この映画にかける川本監督の想いを读んでいただき、ぜひ応援してください。ポスター設置で協力いただけるようでしたら、「和良おこし協議会」にも若干ご用意がありますので、よろしくお願ひします。

彼の教師としての原点である大阪、西成区の中学校で取材を進めたところ、彼と1980年代を共に過ごした同僚教師と卒業生から話を聞くことができました。そこで目の当たりにした「人との距離感」に驚くと同時に、羨ましさに近いものを覚えました。

30年以上も前のことをまるで昨日の出来事のように話す教師と生徒のあいだには、「教育者と学び手」、「大人と子ども」を超越した「人として対等」な人間関係が築かれているのがはつきりと分かりました。

2年半をかけた取材を経て、当時の中学校でどのような学校生活を送られていたのか、何度もぶつかっては理解し合った姿を知るにつれ、現代を生きる人たちへの道しるべになるものが作れると確信しました。映画に関わる人間だからこそ、その発信力を生かすことができる。私はどんな困難があろうとも映画にしなければいけないと決心したのでした。

プロデューサー・監督 川本貴弘



映画かば公式HP

### 集落の鎮守を合祀

和良町下土京には、下から下平（しもだいら）組、月屋組（つきや）、横谷組（よこだに）と3つの部落（集落）があります。それと上土京の中井野組（なかいの）が加わって、鎮守である熊野神社祭礼を執り行うのが習わしとなっています。

熊野神社祭礼では、十年ほど前より集落には舞児を務める子どもが居なくなりましたことから、舞児など神楽の奉納は行われなくなりました。現在は祭礼時には氏子などが集まって神事のみが行われています。

3月22日（日曜日）は、これまで月屋組が主に管理をしてきた「稻荷神社」と「秋葉神社」を「熊野神社」に合祀する準備が行われ、2つの神社の「宮じまい」の神事が執り行われました。

月屋組では、集落に住む者の高齢化が進み、これまでのように管理ができないという事で、合祀に至ったわけですが、その場所も山のふもととは言うものの、高齢者がそこまで行ってお参りするには、なかなか辛いとも言えます。また石組みの階段はあるものの不安定な足元で、社の前までたどり着くにも困難とも言えます。そういったこともあり、大晦日にそこへお参りに行く人も少なくなりました。熊野神社も過去には細い山道をどんどん上って行ってお参りしていたのですが、20年ほど前には自動車でも上って行けるように整備されました。それによって神輿や神楽の道行きも随分安全になったものでした。

昭和53年に「東洋大学」が和良町を調べたものによつての様な記事があります。

#### 熊野神社の祭礼 下土京

下土京では、以前は11月3日に行っていたが、現在は4月9日に行っている。祭日には大神楽が奉納される。一時途絶えたが、7、8年前から再び行われるようになった。また、大正の初めまでは、伊勢神楽も行われていた。

境内には舞台もあって、過去には芝居なども行われていたそうです。数年前の祭日には下土京の住民が集まってきて、バザーが行われ、獺師さんからは鹿肉なども差し入れられて、BQや焼きそば、子ども用アイスクリームやお菓子、ちよっとしたゲームや宝箱などもあったように思います。舞台ではカラオケなども催され、司会を務めたこともあったのが思い出として残っています。子どもの頃には集落内の商店がたいやきの屋台を出されていました。現在それが行われないうのはさみしいという想いもありますが、人が減ってきたことでそれを維持することは難しいです。

祭礼はただのイベントのようなものではありません。飲んだり、バザーなどを楽しんだりすることが無くなつてさみしいといった事だけではなく、集落の鎮守を祭る日には、ぜひお参りに行っていただけたらと思います。

4月になると和良町内各所で祭礼が行われていますが、今年は諸事情により中止となり、神事のみ行われるところがほとんどの様子です。一日も早くこの騒動が収まり、穏やかな日々が続ぎ、集落の伝統や文化が長く続くことを願いたいと思います。



### 地域おこし実践隊

#### 着任のご挨拶

このたび4月より和良町の地域おこし実践隊として採用され、和良おこし協議会事務局で働くことになりました。

生まれは東京で、高校と大学時代をアメリカで過ごしました。大学卒業後、東京で10年ほど販売、物流、ITシステムなどの仕事をしたあと、デンマークのビジネススクールで2年間学びました。

3月末から妻と赤ちゃんと一緒に和良での新生活をスタートしました。先月は休みの日に和良川のほとりに咲く満開の桜を観ながら、ゆっくりとした豊かな時間を楽しむことができました。

和良おこし協議会事務局では和良の郷だよりの編集、体験型ツアーなどなどを担当します。先輩方から地域のことを学びながら和良を盛り上げていけるように努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。普段はわらおこしにおりますので、お気軽に声を掛けてください。



### 和良町の人口

令和2年4月1日現在

人口

1,617人

男性

786人

女性

831人

世帯数

646世帯